



特 集
辞書指導と語彙指導



◎実践紹介①——『ジーニアス英和辞典』

英語への興味と確かな学力を保証する辞書指導

小岩井秀樹



■はじめに

多くの進学校では、「紙の辞書」を使うよう指導している。本校においても基本的には「紙の辞書」を使わせている。高校生がまず辞書を使いこなせるようになるためには、「紙の辞書」がベストであり、英語への興味と確かな学力を保証してくれる。本年度新入生に対して実践してきた、ささやかな辞書指導例を紹介しながら、私見を述べたい。

■指導例①「国語科との共同作戦」

「紙の辞書」を購入させるためには、英語科だけでなく、国語科と協力するとよい。そうすることで、学校の指導方針の統一性が図られる。新入生・保護者あてに「国語・英語の辞書購入について」という通知文を出す。その中で、基本的に「紙の辞書」を購入するよう伝えて、理解を得る。入学前のオリエンテーション等で、新入生に口頭で主旨説明した。基本的には、学校の方針をよく理解していただき、保護者・生徒からの問い合わせはなかった。

■指導例②「毎時間辞書を机の上に置いておく」

英語 I および O.C. I の授業で、必ず毎時間辞書を机の上に置いておくよう指導している。授業中に辞書を引かせながら、辞書指導をする。

【例】

・教科書の 1 ページに出てくる他動詞を、全て引かせる。(辞書で他動詞・自動詞を意識するよう動機付けしたいとき)

・重要な文法項目・語法に関連した例文を、各自の辞書で調べさせる。気に入った例文を黒板に書かせ、ゲーム感覚で例文集を作らせる。(G4 の「be＋不定詞」の例文は簡潔かつ分かりやすい。)

■指導例③「授業での指導事例」

多くの高校では、「予習→授業→復習」のサイクルで学習習慣を定着させるよう指導する。予習の際、新出単語等を辞書で調べなければいけない。ほとんどの生徒は中学生のときに辞書を引いた経験がない。だから、最初のうちは、授業の中で辞書指導をする必要がある。授業中に辞書指導として取り上げた例を挙げる。

【単語の例】light

“I learned to see my own country in a new light.”

(Lesson 1 New Faces, New Places, *CROWN English Series I*, New Edition, 三省堂)

単語“light”を G4 で調べさせる。⑧⑨として「[形容詞を伴って] (物事の) 見方、見解、観点」
see the crime in various ~s その犯罪をいろいろな観点から見る / put things in a different ~ 物事を違った見方をする (後略)」とあり、さらに、成句に「see O in a better [different, new] light …を見直す [異なった角度から見る、新しい見方をする]」がある。多義語をどのように辞書で最終的に調べるか、G4 を使うと、とても分かりやすい。辞書によっては see O in a better [different, new] light について一切取り上げていない事例がある。

辞書を引いたとしても、分かりやすい解説や例文が見あたらなかったとすると、辞書を引く意欲を喪失しかねない。辞書選びは重要だ。

【構文の例】so that ～

教科書に、下のように「so that 構文」が出てくる。授業では、辞書を引かせて最終的に確認させた。その後、しばらくして学習相談に来たある生徒は、次のようなことを言っていた。「実は家では、単語の意味を調べるときには素早く引けるので電子辞書を使っています。でも、この前の授業でやった『so that 構文』は、やはり『紙の辞書』のほうが理解しやすいです。」このような重要項目を引くと、「紙の辞書」を使うことのメリットを生徒は自然と理解してくれる。

“An American had a plan to build flatboats supporting the temples so that when the water rose, the temples would also rise.” “A British scientist suggested leaving the temples under the water so that we could see them as in an aquarium.” (Lesson 3 Abu Simbel, 同上)

■指導例④「副読本で辞書引きトレーニング」

本校では伝統的に、1・2年次に副読本を年間10冊ほど読ませている。1年次の前半に与える副読本には、辞書引きトレーニングと読解力養成を兼ね備えたものを選んだ。現在、5冊目である。レポートを提出しなければいけないので辞書を引かざるを得ない。感想文には、「辞書が速く引けるようになった」、「何回も辞書を引かなければいけないので、途中で嫌になったが、課題を完成させた時には、自信がついた」等の感想が見られた。中学校で辞書を引いたり、物語・神話、推理小説等を英語で読んだ経験がある生徒は、ほとんどいない。多読と辞書引きのドッキング作業は、生徒の英語学習史上、二重のカルチャーショックである。だから、2倍効果があると言える。

ある副読本には次のような設問がある。特に下線部分に注目していただきたい。

【設問例】

let を辞書で引き、次の解説を読んで下の問に答えなさい。

Let me try once more. (私にもう一度やらせてください)

上のように let には「let+目的語 (me)+動詞の原形 (try)」の形をとる用法があります。しかし動詞の次に前置詞や副詞がくると動詞が省略される場合があります。次の英文では get が省略されています。日本語に直しなさい。

(1) ll. 10-11. Please let me [get] out, too!

(2) l. 13. I won't let any more bad things [get] out of the box!

* let out や let out of は成句として辞書にのっていることもある。

* 君の辞書によると上の用法の場合、get の他にどのような動詞が省略されると書いてありますか。

(Brook Neal & Susumu Kamaike, *Mischief of the Gods*, 山口書店)

辞書によっては、下線部に関しての記述が何もないことが、生徒の質問によって明らかになった。下線部の設問について、「辞書で調べてみたのですが、何も書いてありませんでした」と質問に来た生徒が数名いたのである。しかし、G4 を持っている生徒たちは答えることができた。辞書選びは重要だ。

■終わりに

私が昔使った様々な辞書（英和、和英各種辞書）を教室に持っていき、「辞書ライブラリー」を作ろうかな。英英辞典も何種類かさりげなく置いておこう。興味を持ってくれる生徒がいることを願って。即効性や結果をすぐ求められる時代だからこそ、生徒たちに良質な辞書を、じっくりと読ませ、眺めさせたいものだ。

(こいわい ひでき・長野県立上田高等学校教諭)